

『学習院史学』 総目録（創刊号～第 62 号）

創刊号 1965.1

創刊の辞	児玉 幸多
論説	
道路の歴史	児玉 幸多
日本封建制成立に関する研究史	安田 元久
高麗の四十二都府について	末松 保和
「殺人者死 傷人者刑」について	小倉 芳彦
パリ封鎖の諸状況	金沢 誠
ポリュクラテスと商業	清永 昭次
彙報	

第 2 号 1965.11

論説	
犬養氏および犬養部に関する研究	黛 弘道
承久の乱に関する一考察	鹿野 賀代子
南北朝初期に於ける政治情勢について——足利尊氏と新田義貞を中心として——	吉田 輝代
足高制に関する一考察	泉井 朝子
庚有為の日本観	斎藤 道子
研究ノート	
イングランド封建制に関する諸問題	野中 和子
彙報	

第 3 号 1966.11

論説	
近世後半期における長崎貿易の変質——落札をめぐる二つの問題——	森岡 美子
古代の巴と蜀——秦による巴・蜀統治を中心として——	種部 いく子
寛永寺の寺務組織について	横田 知恵子
伊勢平氏の領主的性格	飯田 悠紀子
天武・持統朝に於ける皇親政治について——大津皇子の謀叛を中心として——	宮本 さゆり
彙報	

第 4 号 1967.11

論説	
第一次ロシア革命とアジア——オスマントルコを中心に——	荒井 信一
藤原仲麻呂政権の構造と変質	星野 具子
研究ノート	
大介考	飯田 悠紀子
日傭座を通して見た日傭者の統制	斎藤 紀子
テアゲネスの僭主政の支持者について	赤沼 達雄
中国旅行の残したもの	小倉 芳彦
座談会	

研究生生活の回顧（1）——坂本太郎・末松保和両先生に聞く——
彙報

第5号 1968.12

論説

- 継体天皇の系譜について——釈日本紀所引上宮記逸文の研究—— 黛 弘道
人宿組合と武家奉公人 長倉 素子
尾張国内の円覚寺領について 大三輪 龍彦
洪仁玕と面方文明 内田 義男

研究ノート

- R.H.Tawneyによるイギリス資本主義の成立期の研究について 高川 雄美子

翻訳

- パスカルとモリエール サント・ブーヴ 著／金沢 誠 訳

座談会

- 研究生生活の回顧（2）——大類伸・亀井高孝両先生に聞く——
彙報

第6号 1969.12

論説

- 李朝の革命の一考察 末松 保和
令制五衛府の成立過程 一宮 和子

史料紹介

- 陳天華『中国革命史論』訳稿

研究ノート

- 陸奥国棚倉藩主阿部家文書目録

彙報

第7号 1970.11

論説

- パルテニアイのタラス植民 清永 昭次
室町幕府管領制度について 村尾 元忠
鎌倉時代における和田氏の族的結合 関口 みさを
江戸町会所の貸付金について 伊東 志津子

研究ノート

- 忠王李秀成の評価論争 内田 義男
日本古代の族民について 前之園 亮一

彙報

第8号 1971.11

論説

- 伊能図の作製と学習院大学蔵「伊能図」の特色 保柳 睦美
藤原仲麻呂と道鏡——写経事業をめぐって—— 藤本 昌子
江戸時代の宇治茶師 穴田 小夜子

調査報告

京都泉涌寺古文書探訪記

左見右見

思うこと

成合 信之

彙報

第9号 1972.11

論説

伊豆七島嶋方会所について

松尾 涼

東国における武士団——北武蔵の安保氏について——

伊藤 一美

研究ノート

所謂清国留日学生取締規則事件の背景

金谷 志信

埃及研究から見た近代日本のアジア観

田村 愛理

越前国東大寺領庄園の経営と在地豪族の動向

鈴木 邦子

「寛文印知集」の“内分”記載に関する一試論

松平 秀治

調査報告

京都泉涌寺古文書探訪記（2）

彙報

第10号 1973.12

論説

御手伝普請の変質——「御金御手伝」の成立を中心に——

松尾 美恵子

地租改正研究序説

佐々木 寛司

研究ノート

章炳麟の「革命道德論」を読んで——章炳麟研究に関するノート——

佐藤 広金

薦生牧相論をめぐる諸問題

関 幸彦

慶長三年十月の討幕派と討幕密勅

井上 勲

日本の弥生文化（上）

ピーター・ブレット著／関 俊彦 訳

調査報告

京都泉涌寺古文書探訪記（3）

総目録（第1号～第9号）

彙報

第11号 末松保和先生退任記念号 1974.12

末松保和先生をお送りする

金澤 誠

末松保和先生略年譜

末松 保和

論説

三韓雑考——「魏志」韓伝にみえる韓の帯方郡攻撃事件をめぐる——

成合 信之

武蔵国留守所惣検校職に就いて——北条執権政治体制成立史の一齣——

岡田 精一

「子路」試論

原 宗子

調の収取よりみた律令財政

尾崎 治子

“義勇隊”そして暗殺団——清末「革命派」研究のための自戒二、三——

篠崎 守利

彙報

第 12 号 1976.2

論説

院政期における中央軍政について	安田	元久
備中国大税負死亡人帳攷	松尾	光
十・十一世紀における国司の荘田収公について	鈴木	哲
白河藩の面扶持について	近松	鴻二

研究ノート

日本の国号の成立に関する覚書	川崎	晃
----------------	----	---

彙報

第 13 号 1977.1

論説

古河藩政前期についての一考察	小沢	文子
近世在郷町周辺村落における通婚圏について	小林	みさ子
地租改正の等級制度	佐々木	寛司
国民革命期の国家主義派及び「中国青年党」の動向について	蔭山	雅博

研究ノート

十二世紀中世について	堀越	孝一
------------	----	----

彙報

第 14 号 1978.1

論説

分与賞典禄の研究——尾張徳川家の場合——	松平	秀治
「辺境在家」小考	並木	優記
「在国司」に関する一考察	関	幸彦
厳復と＜自由＞論	小松原	伴子

研究ノート

後白河院々司の構成とその動向——その 1——	菊池	紳一
------------------------	----	----

紀行

ロンドン的一天——マルクスの墓のこと——	末松	保和
----------------------	----	----

彙報

第 15 号 1978.12

論説

在地領主制と公文職——紀伊国和佐荘の研究——	並木	優記
奈良朝貴族の人数変化について	持田	泰彦
モンテーニュと宗教戦争	鳴海	久紀

研究ノート

後白河院々司の構成とその動向——その 2——	菊池	紳一
梁啓超と反袁運動について	川上	哲正

公開鼎談

歴史学の現実を語る	出席者：相田	重夫・
	上原	淳道・

彙報

第 16 号 児玉幸多先生退任記念号 1980.3

児玉幸多先生をお送りする	清永 昭次
論説	
ミュティレネの僭主と調停者	清永 昭次
近世武家の婚姻・養子と持参金——大名榊原氏の事例——	松尾 美恵子
中世初期の開発と所領形成——農民的、領主的開発を中心に——	伊藤 正義
研究ノート	
武州世直し一揆における打ちこわしの様相	斎藤 洋一
後白河院々司の構成とその動向——その 3 (完) ——	菊池 紳一
談話	
私と歴史	児玉 幸多
彙報	

第 17 号 1981.2

論説	
国司の私的権力機構の成立と構造——十一～十二世紀における国司権力の再検討——	久保田 和彦
自由心霊派異端におけるナトゥーラ概念について	石渡 明夫
「総力戦」準備段階における宇垣軍縮の意義	渡辺 清志
翻訳	
日本の弥生文化 (下)	ピーター・ブリード 著／関 俊彦 訳
彙報	

第 18 号 1981.12

論説	
院政時代における院領荘園支配機構とその性格	榎 道雄
中世武士社会に於ける婚姻関係——北条氏の場合——	並木 真澄
ジョセフ・ド・メーストルとフランス革命 (1)	金沢 誠
研究ノート	
文久期における公武合体派——近衛忠熈への建白を中心として——	森内 隆雄
彙報	

第 19 号 1982.4

論説	
北条時政発給文書について——その立場と権限——	菊池 紳一
大宝前後の水旱蟲霜問題	松尾 光
研究ノート	
国衙の船舶徴発権をめぐる若干の問題	高野 俊郎
研究動向	
最近の中国における王安石評価をめぐって	柳田 節子
講演	
記録について	土田 直鎮

第 20 号 1982.12

論説

マラヤ・インド人のアイデンティティ模索——1920-30 年代の初期ナショナリズムの分析——

田村 愛理

中世初期の「寺社」権門の開発と所領形成——伊賀国名張郡矢川村・築瀬村の開発とその特質——

伊藤 正義

研究ノート

江戸触頭についての一考察——修験本山派を中心に——

高埜 利彦

民国初年のアナキズム——劉思復の社会主義論——

川上 哲正

書評と紹介

総目録（創刊号～第 20 号）

彙報

第 21 号 1983.4

論説

「欠史八代」について（上）

前之園 亮一

西欧中世における歴史思想の問題——トマス・アクィナスとフィオレのヨアキムを中心に——

石渡 明夫

ジョセフ・ド・メーストルとフランス革命（2）

金澤 誠

研究ノート

新羅中・下代の対日本外交——朝貢と交易をめぐって——

浜田 耕策

彙報

第 22 号 1984.1

論説

院政時代における院領荘園関係申請雑事の処理形態

榎 道雄

平安時代における「国司下文」の三形態

久保田 和彦

荘園領主と中世村落——東寺領若狭国太良荘——

並木 優記

彙報

第 23 号 1985.4

論説

李朝後期慶尚道丹城県の社会変動——学習院大学蔵丹城県戸籍大帳研究——

井上 和枝

後古典期後期終末のマヤ北部低地の領域構造

大越 翼

王朝国家期における国衙国内支配の構造と特質

中込 律子

研究ノート

デロス同盟諸ポリスの国制形態

谷藤 康

書評

『幕府制度史の研究』（児玉幸多先生古稀記念会編）

『幕府制度史の研究』合評

会

彙報

第 24 号 1986.5

論説

信濃国佐久郡馬瀬口村の被差別部落 齋藤 洋一

満州経営機関問題と後藤新平——満鉄総裁時代を中心にして—— 五十嵐 卓

書評

関幸彦著『国衙機構の研究——「在国司職」研究序説』 中込 律子

彙報

第 25 号 金澤誠先生退任記念号 1987.3

金澤誠先生をお送りする 黛 弘道

金澤誠先生略年譜

金澤誠先生主要著作目録

金沢さんの思い出 荒井 信一

おこられた金沢さん 小倉 芳彦

論説

回教圏研究所をめぐって——その人と時代—— 田村 愛理

ジョン・オブ・ソールズベリーの政治思想

——『ポリクラティクス』における‘res publica’‘princeps’‘tyrannus’概念をめぐって——

石渡 明夫

長州藩の公武合体運動

大嶽 靖之

研究ノート

中国における劉思復（師復）研究の現在 川上 哲正

史料紹介

『警固中節会部類記』について 菊池 紳一

彙報

第 26 号 1988.3

論説

鎌倉期・在地領主層の親族関係——聳の位置付けをめぐって—— 高橋 秀樹

絵の「注文者」層とその趣味——15世紀後半のフィレンツェにおける—— 川野 美也子

芸術音楽に於ける古典主義とロマン主義

——モーツァルトとベートーヴェンのピアノソナタ分析を中心として—— 網野 公一

研究ノート

継体王系と息長氏の伝承について——総括および分析視点—— 篠原 幸久

前五世紀におけるアテナイの海軍力 谷藤 康

彙報

第 27 号 安田元久先生退任記念号 1989.3

安田元久先生をお送りする 堀越 孝一

安田元久先生略年譜

安田元久先生主要著作目録

安田元久先生を囲んでの座談会

論説

『三国史記』記載对中国関係記事について——その検討のための予備的考察——	深津 行徳
「僧事」小考——中世僧綱制に関する一試論——	海老名 尚
研究ノート	
アルミニウスの対ローマ戦争	米山 宏史
「部」の諸概念の再検討 覚書	遠山 美都男
書評	
斎藤洋一著『五郎兵衛新田と被差別部落』	須田 肇
彙報	

第28号 1990.3

論説	
大内氏の対京都政策——在京雑掌（僧）を中心として——	小林 健彦
近世後期の諸藩海防報告書と海防掛老中	針谷 武志
研究ノート	
律令「浮浪」・「逃亡」規定について	深津 行徳
講演	
西の京と北野社	網野 善彦
ポリスの世界——スパルタの場合を中心にして——	清永 昭次
彙報	

第29号 1991.3

論説	
中世後期における京都周辺の関の構造	川島 優美子
「家」継承における血縁と擬制——中世的「家」成立過程の一考察——	高橋 秀樹
長州藩における攘夷藩論の成立	大嶽 靖之
唐代樂安孫氏研究	高橋 徹
講演	
畿内王権論をめぐって	笹山 晴生
直筆と微言——中国の史家の場合——	小倉 芳彦
彙報	

第30号 柳田節子先生退任記念号 1992.3

柳田先生を送る	井上 勲
柳田節子先生略年譜	
柳田節子先生著作目録	
三十年間、飽きもせず	小倉 芳彦
論説	
『管子』地員篇の粮食作物	原 宗子
森山啓の社会主義リアリズム論——プロレタリア文学運動と人民戦線に関する一考察——	桑尾 光太郎
カリフォルニア先住民の世界観	関 俊彦
研究ノート	
『実隆公記』紙背文書と越後上杉氏	小林 健彦
旧法党再考——呂公著・范純仁と司馬光を手懸りとして——	毛塚 康明

現在の中国における中体西用論研究の動向	川上	哲正
講演		
出羽国大山騒動	児玉	幸多
教職員・卒業生著書目録		
彙報		

第 31 号 1993.3

追悼		
永訣 末松保和先生	小倉	芳彦
金澤誠先生を想う	堀越	孝一
論説		
光明立後の史的意義をめぐって	井上	亘
留省算生に関する一考察——天平三年式部解を中心に——	伊佐治	康成
後期室町幕府政所の意思決定システムに関する一考察	山田	康弘
紅葉山文庫の管理と書物師出雲寺	藤實	久美子
江戸武家方辻番政策の再検討——役と「請負」——	岩淵	令治
研究ノート		
古典期ギリシアのプロクセノス制度——前 5 世紀のアテナイを中心に——	岡澤	亮子
イヴァン雷帝の改革政治とゼムスキー・サボール	兎内	勇津流
講演		
実証主義へ還る	堀越	孝一
宋代の農家経営	柳田	節子
彙報		

第 32 号 1994.3

論説		
大名佐竹家の婚姻・通婚圏と幕藩関係——婚姻の経緯と本家・分家関係——	高橋	博
下関賠償金と幕末新港開港問題	鵜飼	政志
石川三四郎の社会哲学	平島	敏幸
研究ノート		
『参天台五臺山記』にみえる寒山説話について	原	美和子
講演〈学習院大学史学会第九回大会記念講演〉		
中世後期の東国守護をめぐる二、三の問題（講演要旨）	新田	英治
東ヨーロッパにおける「第三の道」	南塚	信吾
総目録		
彙報		

第 33 号 1995.3

論説		
推古朝の朝政	井上	亘
鎌倉住僧定豪について——系譜と寺職獲得の経過の検討——	上田	敝代
戦国期今川領国下の支配構造——戦国大名今川氏の直轄領を通して——	酒入	陽子
西郷伝説の再考察	坂井	新二
ノーサンブリア・ルネサンスにおけるスク립トーリウムの活動		

——ウェアマウス・ジャロウ修道院を中心に——	栗屋	純生
研究ノート		
古河公方足利義氏期の「連判衆」に関する一考察		
——「飛鳥井自庵参上対面次第」の検討をふまえて——	久保	賢司
講演 〈学習院大学史学会第十回大会記念講演〉		
近世大名制の成立	松尾	美恵子
インド文化の魅力（要旨）	荒松	雄
彙報		

第 34 号 高田淳先生退任記念号 1996.3

金沢さんへのお詫び——高田さんと学習院——	小倉	芳彦
高田淳先生の御退職に寄せて	新川	哲雄
高田さんとテニス	吉岡	曠
淳先生のこと、あるいは、うねる高田某	井上	勲
高田先生へ	西川	優子
わが“自定年譜”	高田	淳
高田淳先生著作目録		
論説		
主謂体用虚实論——中国語の品詞分類は可能か——	原島	春雄
宗祇学派の『伊勢物語』注釈	田村	航
西安事件と「中国統一化」論争	松田	昌治
明治政府の下関賠償金残額支払い放棄交渉	鵜飼	政志
研究ノート		
清末中国の赤十字活動に関する一考察——中国紅十字会成立史の諸相——	篠崎	守利
禅譲伝説のパターン分類による一試論	古川原	伸恵
韓非の「勢」の論	李	思行
景梅九と辛亥革命	川上	哲正
講演		
岩倉使節団の見たパリ	福井	憲彦
寄席の誕生	吉田	伸之
彙報		

第 35 号 小倉芳彦先生退任記念号 1997.3

小倉“東洋史学”との交錯	高田	淳
宋代の虎のはなし	柳田	節子
同世代人として	岩淵	達治
小倉先生のこと	山崎	庸一郎
明文と訥言、あるいは「冬の旅」と「東京音頭」	高橋	新太郎
菖蒲のお浸し	堀越	孝一
小倉芳彦先生——あるいは権之助坂の葉桜——	井上	勲
小倉芳彦先生略歴		
小倉芳彦先生主要著作一覧		
論説		
翽風「七月」に寄せて	原	宗子
秦長城建設とその歴史的背景	鶴間	和幸

清代清水江流域の木材交易と在地少数民族商人	武内	房司
一九世紀フランスにおける国籍法と外国人規制	山田	敬子
研究ノート		
名古屋遷府以前の城下町清須——都市構造と支配体制の在り方を探る——	茨	志麻
韓非の思想理論の歴史的価値	李	思行
講演		
大老 井伊直弼	井上	勲
イスラーム世界とマイノリティ——「イスラーム的」共生構造をめぐって——	田村	愛理
追悼		
安田元久先生を偲ぶ	新田	英治
彙報		

第 36 号 清永昭次先生・新田英治先生退任記念号 1998.3

惜別の辞	黛	弘道
清永昭次先生略年譜		
清永昭次先生著作目録		
地図を書く清永先生	堀越	孝一
新田英治先生略年譜		
新田英治先生著作目録		
新田先生のこと	高埜	利彦
論説		
プレ・ローマ期キュレネの有力家族とリビア人	岡田	泰介
古典期プロクセニアの政治的側面	岡澤	亮子
後宇多朝における御書所作文会——『勘仲記』を中心に——	田村	航
後奈良朝期の禁裏小番について	本田	訓代
研究ノート		
前 5 世紀アテナイの海軍戦略	谷藤	康
ブレビスター——古代ゲタイ・ダキアの王権に関する一試論——	米山	宏史
賈大夫の「悪」——中国礼教文化と<かたち>——	折原	幸恵
史料紹介		
『勘仲記』紙背文書——建治年間紙背に関して——	上田	絺代
講演		
中華の形成と東方世界	鶴間	和幸
明治維新——近代化の第二段階——	佐々木	寛司
追悼		
原島春雄先生を偲ぶ	武内	房司
彙報		

第 37 号 1999.3

論説		
平安・鎌倉期の論義会——宗教政策とのかかわりを中心に——	海老名	尚
幕府法令にみる百姓移動への対応——「慥成者」という条件の再発見——	五島	敏芳
一八六三年前後におけるイギリス海軍の対日政策	鵜飼	政志
研究ノート		
マルクス・コルネリウス・フロント——二世紀のある元老院議員の横顔——	島田	誠

伊能嘉矩の台湾原住民族研究	小林	岳二
講演		
スパルタとともに	清永	昭次
中世後期、東西両地域間の所領相博に関する一考察	新田	英治
彙報		

第 38 号 黛弘道先生退任記念号 2000.3

黛先生を送る	小倉	芳彦
黛弘道先生と私	笹山	晴生
黛弘道先生を送る	堀越	孝一
黛弘道先生御退職の報に接して	深津	行徳
黛弘道先生略年譜		
黛弘道先生主要著作目録		
論説		
宋書南齊書・名代・猪膏から見た氏姓成立と盟神探湯	前之園	亮一
日本古代「ソノ」の基礎的考察	伊佐治	康成
神宮傳奏の補任について	渡辺	修
「元老以後」の首相奏薦	川口	暁弘
ランス大司教人事とグレゴリウス改革	加藤	政夫
研究ノート		
古代氏族系譜の形成をめぐる二題	遠山	美都男
伊勢盛時（宗瑞）の父盛定について	家永	遵嗣
史料紹介		
秦代盗牛・逃亡事件——江陵張家山漢簡『奏讞書』を読む——		学習院大学漢簡研究会
講演		
相撲の社会史	高埜	利彦
移住民社会と宗教——18～19世紀の貴州省を中心に——	武内	房司
彙報		

第 39 号 シンポジウム「歴史におけるマイノリティ—異文化を組み込んだ社会—」特集号 2001.3

シンポジウムにあたって——趣旨説明——	村松	弘一
報告		
近世蝦夷地「場所」共同体をめぐって	谷本	晃久
マイノリティをうみだす囲み——台湾先住民族の保留地「蕃地」（番地）の変遷とその機能——	小林	岳二
西洋近代とマイノリティ	福井	憲彦
コメント		
イスラーム史の視点から	田村	愛理
中国史の視点から	武内	房司
討論		
論説		
兵衛関連木簡の再検討——二条大路出土の門号木簡を中心に——	高橋	周
観葉植物の流行——室内の緑化からみるドイツ近代都市の自然環境史——	穂鷹	知美
研究ノート		
盧溝橋事件の評価をめぐる諸問題	松田	昌治

史料紹介

秦代密通・盗傷事件——江陵張家山漢簡『奏讞書』を読む——
彙報

学習院大学漢簡研究会

第 40 号 2002.3

史学科 40 周年を祝う会 記念講演

回想の史学科 小倉 芳彦

論説

祝部小考 小林 宣彦

勝尾寺縁起に見える宋海商について 原 美和子

井伊直政家臣団の形成と徳川家中での位置 小宮山 敏和

代官所役人集団と幕領組合村惣代——幕末期出羽国村山郡の事例から—— 戸森 麻衣子

フランス革命末期（総裁政府と統領制）における空間と公論

ドミニク・マルグラズ／福井 憲彦 訳

ミュンヘンの「赤い番犬」——諷刺誌『ジンプリツィシムス』の形式的側面について——

原田 乃梨子

史料紹介

漢初婚姻事件——江陵張家山漢簡『奏讞書』を読む——
彙報

学習院大学漢簡研究会

第 41 号 笹山晴生先生退任記念号 2003.3

笹山先生をお送りする 井上 勲

笹山先生から学んだこと 家永 遵嗣

笹山晴生先生略年譜

笹山晴生先生主要著作目録

論説

百済内朝制度試論 李 文基

平安時代における即位叙位の特質——東宮官人を例に—— 畑中 彩子

令制における弔使について 牧 飛鳥

福島県域の成立と会津若松分県問題 大内 雅人

俑から見た中国古代のウマの変容 益満 義裕

研究ノート

東大寺修二会と復活祭——水の信仰を巡って—— 窪 明子

日唐における東西市の管理体制 市川 理恵

光孝皇女忠子内親王の生涯——『日本紀略』関連記事の再検討—— 川合 奈美

『日本紀略』長保元年十二月十三日条について——「新制」に関する一史料をめぐって——

坂田 充

平頼盛小考 田中 大喜

室町期における三河国の支配構造——守護と国衙の関係を中心に—— 湯原 紀子

信州須坂藩田中家の江戸町屋敷経営 赤松 聡子

講演

軍記と史実の間 家永 遵嗣

ローマ共和政史研究の新動向と帝政成立 島田 誠

彙報

第 42 号 堀越孝一先生退任記念号 2004.3

時の旅人——堀越さんを送る——	小倉	芳彦
堀越先生に贈る言葉	福井	憲彦
堀越先生のこと	高埜	利彦
堀越孝一先生略歴		
堀越孝一先生主要著述一覧		
論説		
『哲学の教えに関するエンテティクス』注釈——第 1 行から第 222 行まで——	石渡	明夫
自らをイメージするということ——初期植民地時代のマヤ王族の出自譚を分析する——	大越	翼
「カボシュ暴動」とパリの肉屋職人	岡田	尚文
「ローマへの道」はあったか？		
——カンブレ大聖堂とローマ教皇庁聖歌隊の関係をめぐって——	山本	成生
中世盛期ドイツ領主社会における人的結合関係		
——『ニーベルンゲンの歌』にみる「フリーウントシャウト」——	鈴木	みどり
黄土高原西部の環境と秦文化の形成——礼県大堡子山秦公墓の発見——	村松	弘一
越前国鯖江藩における産物問屋・会所の展開——天保期を中心に——	野尻	泰弘
研究ノート		
ロマン主義問題のいま——西洋音楽文化史の分野から——	網野	公一
日常史・メディア・民衆自叙伝		
——生活史記録集成とシリーズ『それでもって失われ行くことのないように』——	後藤	秀和
前漢期黄河故河道の復元——衛星画像と文献資料の活用・濮陽を例に——	長谷川	順二
近世後期の女蔵人・御差の制度的考察	高橋	博
史料紹介		
合衆国戦時転住局とその文書——戦時転住局定例報告書の史料的価値について——	外川	知靖
講演		
政治史上の宇多天皇	笹山	晴生
英国地震史考	見市	雅俊
論説		
The Ghriba: The Role of “The Stranger Woman” in an Islamic Plural Society	田村	愛理
彙報		

第 43 号 シンポジウム「歴史と環境—人と自然の関係史—」特集号 2005.3

特集：第 20 回学習院大学史学会大会シンポジウム「歴史と環境——人と自然の関係史——」

コーディネーター 原 宗子

シンポジウム実行委員

趣旨説明		
基調講演		
歴史と環境	堀越	孝一
報告		
中国古代の山林藪澤——人間は自然環境をどう見たか——	村松	弘一
環境史・災害史からみた古代東国の村落と民衆	宮瀧	交二
世紀転換期ドイツの都市とガルデン——近代都市における身近な自然環境の変容——	穂鷹	知美
討論	コメンテーター	斎藤 洋一

論説

- 『御注孝経』の伝来と受容——九世紀日本における唐風化の一事例として—— 坂田 充
近世干拓地入植の一断面——地底銭の運用をめぐる—— 内山 幹生
戦国韓国の地方鑄造兵器をめぐる——戦国後期韓国の領域と権力構造—— 下田 誠
唐代ソグド姓墓誌の基礎的考察 福島 恵

研究ノート

- ヴィクトル・ユゴー研究史：ユゴー・イメージの変化とユゴー研究 舘野 直子

追悼

- 追悼、清永昭次先生 井上 勲

彙報

第44号 2006.3

論説

- 札幌神社の形成過程 福原 紗綾香
秦による東方徙民の一側面 柏倉 伸哉
高松宮宣仁親王論——終戦工作の行動原理—— 濱田 英毅

研究ノート

- 大名家の奥附に関する一試論 高橋 博

講演

- 城柵の北の平安時代——平安後期の北東北地方と出土文字資料—— 鐘江 宏之
遺言書が語るもの——中世イタリアの事例を中心に—— 亀長 洋子

彙報

第45号 2007.3

論説

- 百済王氏の特性とその変質 小宮山 嘉浩
建武政権の太政官符発給——政権の理念と構想の一断面—— 甲斐 玄洋
漢長安城未央宮の禁中——その領域的考察—— 青木 俊介
前漢後期から後漢時代の史書編纂事情の変化について
——明帝期における史書私撰の禁を中心に—— 中西 大輔
フランス第三共和政初期における林間学校——衛生と健康の教育をめぐる—— 犬飼 崇人

研究ノート

- フランス人民戦線期、CGTが模索した民衆ツーリズムについての一考察
——ツーリズム団体「万人のための観光・ヴァカンス」
Tourisme, Vacances Pour Tours の成立に託した夢—— 平松 佳子

史料紹介

- ロドリゴ・デ・ビベロの『日本見聞記1609年』 早川 育

講演

- 室町幕府の成立 家永 遵嗣
中国における皇帝権力の実態再考——北宋の徽宗朝政治を中心に—— 王 瑞来

書評

- 高橋秀樹著『古記録入門』 山中 裕

追悼

- 追悼 柳田節子先生 武内 房司

総目録

第 46 号 2008.3

論説

前五三年度コンスル選挙——共和政末期ローマにおける選挙の一具体例として—— 丸亀 裕司

研究ノート

十九世紀中葉のイギリスにおける合同友愛協会の法的承認問題 内山 新吾

史料紹介

ペドロ・デ・バレンシアの献策書「スペインのモスリコについて」
——近世スペイン史研究におけるその史料的価値—— 三瀨 みづほ

講演

東アジア海の文明を求めて 鶴間 和幸

朝鮮から見た倭城 村井 章介

追悼

児玉先生のご逝去 松尾 美恵子

彙報

第 47 号 2009.3

論説

將軍姫君の婚礼の変遷と文化期御守殿入用——尾張藩淑姫御守殿を事例として—— 吉成 香澄

唐による外国人授官傾向の変遷——武職事官の授与を中心に—— 河野 剛彦

新末～後漢初期の『史記』とその補続者について 中西 大輔

書評

伊藤真実子著『明治日本と万国博覧会』 館野 直子

講演

過去の記憶と「記憶の断罪」*damnatio memoriae*
——古代ローマ人はどのように歴史を記憶し、歴史を創り換えてきたかを中心に—— 島田 誠

東ユーラシアのなかの中国——元代から現代まで—— 上田 信

彙報

第 48 号 2010.3

論説

江戸時代の青蓮院門跡と入木道 田中 潤

昭和天皇の政治・外交方針と軍事認識——昭和初期の海外出兵への対応をめぐって—— 濱田 英毅

一七〇七年の合同に対するスコットランド人の論理と認識 武田 和久

研究ノート

大名佐竹家の婚礼構造——儀式・親類書・御取持—— 高橋 博

高橋 博

講演

都市平泉研究の問題点 入間田 宣夫

フランス近現代における居住空間の変遷 中野 隆生

第 49 号 井上勲先生退任記念号 2011.3

井上先生との三〇年	高埜	利彦
井上勲先生を送る	武内	房司
井上勲先生御退職にあたって	松本	晃和
先生の思い出	川口	暁弘
井上ゼミで過ごした数年間のくさぐさ	長谷川	怜
井上勲先生略歴		
井上勲先生著作一覧		
論説		
豊臣期関東における浅野長政	梯	弘人
京都守護職の成立	長倉	絵梨子
研究ノート		
御三卿の家臣団構造——一橋徳川家を事例として——	武子	裕美
講演		
「日本の七世紀史」再考——遣隋使から大宝律令まで——	鐘江	宏之
唐の貢献制と国信物——遣唐使への回賜品——	石見	清裕
追悼		
高田さんと学習院・続	小倉	芳彦
彙報		

第 50 号 2012.3

論説		
浅野長矩の処罰と戸田氏定——刃傷事件後に親類が果たした役割——	岩崎	里子
村方地主経営にみる近世後期関東の地域社会構造——武蔵国入間郡赤尾村林家を事例に——	小松	賢司
江戸幕府将軍世子の人生儀礼——家治の誕生祝儀を事例に——	原田	知佳
漢武帝時代の香草・香木に関する一考察——中国香文化史の黎明期——	千葉	恭子
研究ノート		
近世琉球の身分制と身分上昇——医者を中心として——	安藤	奈々
咸豊前期における人事改革と宗室について	倉嶋	真美
追悼		
黛先生の思い出	井上	勲
彙報		

第 51 号 2013.3

論説		
高野山根本大塔領大田荘の始動と鑿阿の働き	高橋	昌明
中世東大寺郷支配の変容——土地権利保障に注目して——	吉田	俊
一四世紀における武家祈禱と寺門派門跡	近藤	祐介
研究ノート		
葬祭と近世の寺院——新義真言宗田舎本寺大悲願寺の事例を中心に——	日暮	義晃
研究動向		

イングランド・スコットランド合同三〇〇周年と一七〇七年合同研究 ——合同研究の多様化と新視点——	武田 和久
講演 海の向こうへ——中世ジェノヴァ人の行動様式——	亀長 洋子
彙報	

第 52 号 2014.3

論説 「考帳」について	田原 光泰
細川頼之と覚王院宋縁	水野 圭士
アウグストゥ時代における「イタリア人」——イタリア半島の民族像と「イタリア人」創造——	梅崎 貴宏
講演 日本近代史学研究のため予備的覚書	千葉 功
ベトナムに根づく中国近代の民衆宗教——先天道からカオダイ教へ——	武内 房司
総目録 『学習院史』創刊号～第 51 号	
彙報	

第 53 号 2015.3

論説 十五～十六世紀前半における室町幕府祈禱体制——醍醐寺三宝院の動向を中心に——	石田 出
江戸幕府外交権と対馬藩——正徳度「国書引替一件」をめぐって——	望田 朋史
講演 江戸時代の宗教と朝廷役割	高埜 利彦
剣闘士とポンペイ最後の日	本村 凌二
彙報	

第 54 号 2016.3

論説 宝暦事件後の朝廷——宝暦一二年の蔵人頭任免を中心に——	林 大樹
弘前藩における水源涵養林「田山」の利用と実態	萱場 真仁
史料紹介 稲垣長賢「貴族院代表鮮満皇軍慰問団」日記	長谷川 怜
書評 中世前期の社会を捉えなおす ——田中大喜『新田一族の中世』、高橋秀樹『三浦一族の中世』を読んで——	山田 邦明
保城広至『歴史から理論を創造する方法：社会科学と歴史学を統合する』 (勁草書房、二〇一五年、二〇〇〇円)	神野 峻至・ 西山 直志・ 長谷川 隆一
講演 パリの郊外に田園都市を建設する——一九二〇～五〇年代のシュレーヌ——	中野 隆生
江戸の贋酒	岩淵 令治

第 55 号 福井憲彦先生退任記念号 2017.3

福井憲彦先生退任記念

福井さんとの思い出	島田 誠
福井憲彦先生お疲れさまでした	高埜 利彦
福井憲彦先生略歴	
福井憲彦先生主要著述一覧	

論説

北条氏権力の専制化と鎌倉幕府儀礼体系の再構築——得宗権力は将軍権力篡奪を指向したか——	桃崎 有一郎
徳川将軍家のアーカイブズ、紅葉山文庫——吉宗政権期を中心に——	上條 静香
前漢前期における高祖系列侯の衰退——高祖系列侯の紹封・復封・将軍職任用より見た——	邊見 統
後漢時代における反乱の平定——「恩信」を媒介として——	長谷川 隆一

講演

近代の遺産と歴史学の未来	福井 憲彦
比較の中の明治維新——その普遍性と特殊性——	三谷 博

追悼

追悼 井上勲先生	高埜 利彦
----------	-------

彙報

第 56 号 高埜利彦先生退任記念号 2018.3

高埜利彦先生退任記念

高埜先生をお送りする言葉	家永 遵嗣
高埜先生を送る	武内 房司
高埜利彦先生略歴	
高埜利彦先生主要著述一覧	

論説

「室町殿親族拝」の出現と消滅	近藤 聖弥
近世中期における公儀馳走役——幕府諸政策との関連をめぐって——	望田 朋史
符の政治的意義——専制権力と交通との関係に就いての考察——	莊 卓燐
一五世紀末——一六世紀におけるパリ大学の特権——王権との関係に着目して——	五島 静夏

史料紹介

水野勝邦の中国研究関係資料	長谷川 怜
---------------	-------

講演

蒋介石の書簡外交、1936-1941 年	麻田 雅文
14 世紀の公武関係・朝幕関係と室町幕府	
——皇位継承争いのもとにおける国制の再構築——（縮約補訂）	家永 遵嗣

彙報

第 57 号 2019.3

論説

鎌倉時代の荘園紛争と六波羅探題の問注記—紀伊国名主荘・丹生屋村間の紛争を事例に—	工藤	祐一
田中王堂の思想変化に関する考察—自然主義文学をめぐる論争を踏まえて—	山田	大生
ベク職の販売について—同治二～三（一八六三～一八六四）年のベクの任命を事例として—	河野	敦史

講演

南北朝正閏問題再考	千葉	功
中世シチリアにおける異文化の併存と対立—ヨーロッパ、イスラム、ビザンツ—	高山	博

彙報

第 58 号 中野隆生先生退任記念号 2020.3

<中野隆生先生退任記念>

中野先生との時間	亀長	洋子
中野隆生さんとの思い出	島田	誠
中野隆生先生略歴		
中野隆生先生業績一覧		

論説

つくられた始皇帝—一〇～一三世紀における始皇帝像の変遷—	段	宇
フランスの大西洋貿易と地中海側—ラングドック産業の発展と穀物流通—	空	由佳子
研究ノート		
フランス革命期における外国人—研究の動向と展望—	長島	滯

講演

中国古代美術の海外流出	鶴間	和幸
一八世紀の緩やかな変化—束縛からの解放と日常化するリスク—	浪川	健治
追悼		
稀代の歴史家、堀越孝一先生に贈る哀悼の辞	福井	憲彦

彙報

第 59 号 鶴間和幸先生退任記念号 2021.3

<鶴間和幸先生退任記念>

鶴間和幸先生のご退職によせて	武内	房司
鶴間和幸先生を送る	千葉	功
鶴間和幸先生略歴		
鶴間和幸先生研究業績		

論説

昭和戦前期の宮内官吏と非官吏—「宮内職員綱領」の制定過程を中心に—	芳澤	直之
北一輝研究の動向と展望	菅原	薫仁
通婚関係からみる孫呉政権の構造	長谷川	隆一
「東海琅邪界域刻石」をめぐる—中国古来の海上交通と航路標識	村松	弘一

研究ノート

四度使の変遷にみる中央集権体制の変容	釜谷	友梨子
--------------------	----	-----

彙報

第 60 号 2022.3

論説

鹿ヶ谷事件以後の平清盛の政治的地位について	有田	志穂子
「安永の御所騒動」における口向役人一斉処罰の実態	細谷	篤志
現在の起点としてのルネサンス—明治末年の田中王堂の検討を通して—	山田	大生
賜姓ソグド人李準の生涯—「李準墓誌」(貞元十年(七九四)) 考察—	福島	恵
研究ノート		
アングロ＝サクソン期イングランドの土地・権利関係文書の真偽問題と研究動向	岡本	孝信
講演		
開国前夜の天皇・朝廷と鷹司政通	佐藤	雄介
イスマイル・ユルバンと近代の地中海世界	工藤	晶人
彙報		

第 61 号 2023.3

論説

北一輝が内村鑑三から受けたキリスト教的影響について	小山	詩織
史料紹介		
東京大学史料編纂所所蔵 「伏見宮日記(大正九年)」	仲田	拓真
講演		
出土文字史料から歴史を読む—楚簡の世界—	海老根	量介
近世房総の山間村落と薪炭生産	後藤	雅知
追悼		
新田英治先生を悼む	武内	房司
彙報		

第 62 号 2024.3

論説

浄御原考仕令と持統四年詔の意義	村島	秀次
常陸親王と正平一統—観応の擾乱以降の地方権力—	水野	圭士
研究ノート		
保元元(一一五六)年崇徳院失脚の要因—父子関係の変化と藤原惟方の動向を中心に—	下向	悠介
秦代南方地域における河川水系の位置づけ—遷陵県を中心に—	杉浦	仁誼
史料紹介		
宮内庁書陵部所蔵九条本『朝覲行幸賞叙位執筆次第』の紹介と翻刻	高橋	宙暉
講演		
奈良時代東国の郡的世界をさぐる—上神主・茂原官衙遺跡の文字瓦から—	鐘江	宏之
国境と国境地域から見るヨーロッパの歴史と記憶	西山	暁義
彙報		